

第22回 市民公開健康講座

夜のあれこれ

夜間頻尿について



第22回市民公開健康講座「夜のおしつこあれこれ～夜間頻尿(ひんようつ)について」(奈良新聞社・旭化成ファーマ株式会社共催、高の原中央病院後援、近鉄ケーブルネットワーク株式会社・アフラック代理店ライフサポート協賛)が、昨年11月30日、奈良市学園南3丁目の学園前ホールで開かれた。高の原中央病院泌尿器科部長の辻本賀洋氏が夜間頻尿の原因と治療法、日常生活や生命に与える影響などについて講演。「夜間頻尿は原因を明らかにすれば改善可能な場合もあります」と語りかけ、約200人の参加者が、熱心に聞き入った。

高の原中央病院泌尿器科部長
辻本賀洋氏

生活の質の低下

高齢の読者の皆様のなかには夜間頻尿でお困りの方が多いのですが、それでも医師、家族、友人にも相談せず、加齢のためと考えそのままにされておられる方が大多数ではないでしょうか。

夜間頻尿は、男女、年齢を問わず

頻度の高い症状であり、高齢者では

夜間頻尿の回数が多いほど転倒・

骨折のリスクが高くなり、また生活

の質(quality of life: QOL)の著

しい低下を招いていることが最近

の多くの調査で明らかになってい

ます。

夜間頻尿の原因是、膀胱容量の減

少と夜間尿量の増加に大別されま

すが、多尿・夜間多尿・睡眠障害・

間質性膀胱炎・膀胱蓄尿障害・加齢

現象など、さまざまな要因が関与し

ますため、それらに対する適切な系

統的対応が必要との見解が普及し

てきた。2009年4月に一般

医家と泌尿器科専門医の役割分担

を明らかにし、夜間頻尿の診療にお

ける質的向上を目指した夜間頻尿

診療ガイドラインが日本排尿機能

学会から発刊されました。同書は夜

間頻尿の診療方針を提示し、診断か

ら治療のそれぞれの段階における

注意点を示しています。また同ガイド

ラインは前立腺肥大症・間質性膀

胱炎・慢性前立腺炎・慢性骨盤痛症

候群等による頻尿は早期に泌尿器

科専門医への紹介を薦めています。

今回は夜間頻尿について診療ア

ルゴリズム(最適の方法)、病因と

発症機序、疫学、夜間頻尿と

QOL、診断、治療等について説明

いたします。

夜間頻尿は直接関係ありませんが、頻尿の原因には、膀胱炎や前

立腺炎といった炎症疾患や尿管結

石、膀胱癌、前立腺肥大症、前立腺癌

などがあります。これらは、泌尿器

科専門医による診断、治療が必要で

あります。これらは、泌尿器

科専門医による診断、治療が必要で

あります。ただし、夜間頻尿を治療す

めに、頻尿のかたの人数や分布を示

すものです。夜間頻尿(1回以上)は

男女や年齢を問わず頻度が高い排

尿に関する症状であり、その頻度は

10～30%、高齢者40～80%。男女

差はあまりなく、高齢者で夜間頻尿

の回数が増大するとの報告が多い

です。わが国の報告では、海外の報告

に比べ全体に頻度が高く、一貫して

男性が高いとの報告が多く、1回の

夜間頻尿でも睡眠の質や煩わしさ、

頻度が増大するとの報告が、多く

あります。ただし、夜間頻尿(1回以

上)は夜間膀胱容量低下型です

が、この中には前立腺肥大症、過活

動膀胱といったものがあります。残

ります。前立腺肥大症(BPH)

は、排尿障害、頻尿を伴う高齢男性

における夜間頻尿の原因として多

くあります。しかし、夜間頻尿を治療す

めに、頻度が増加するとの報告が、多く

あります。ただし、夜間頻尿を治療す

めに、頻度が増加するとの報告が、多く